

仙台市宮城野障害者福祉センター・障害者相談支援事業所ハンズ宮城野
令和6年度ボランティア養成講座を開催しました。

令和6年9月28日
仙台市宮城野障害者福祉センター
障害者相談支援事業所ハンズ宮城野

令和6年9月28日（土）、令和6年度ボランティア養成講座を開催し、22名の方にご参加いただきました。初めに当センター高橋美菜統括主任が「宮城野障害者福祉センターについて」と題した講話を行いました。当センターでは障害者が日中活動や訓練をしていること、またボランティア養成をしており、当センターで行う「元気まつり」の会場設営や来場者対応、仙台市主催の「福祉まつりウエルフェア」、法人主催の「家族ぐるみ運動会」の運営などでボランティアが活躍いただいていると説明がありました。

その後、仙台市自閉症児者相談センター主任相談員西田有吾氏より「発達障害のある方の理解と支援」と題した講話をいただきました。発達障害のある本人は、「私が好きなことは相手も好きなはず」と感じている可能性があるとのこと、本人の考えや価値観に目を向けることが重要であることを学びました。支援のポイントとしては、①「変化・変更への抵抗を減らすための予習・予告」、②「『こうするとよい』と本人にとってのメリットを伝える」、③「狭くて深い興味関心を活かす」、④「環境調整して刺激を減らす」、⑤「始まりと終わりをはっきりさせるなど境界をしっかりとらせる」ことが大切であると話がありました。

最後に、当センター仙石敏雄理学療法士が「耳の不自由な方とのコミュニケーション」と題した講話を行いました。約10分、簡単な手話のやり方を示した映像を見て「おはようございます」などの挨拶、「おいしい」など日常よく使う言葉について、なぜそのような動作をするのか解説を聞き、モデルの動きに合わせて練習しました。聴覚障害者で手話を使える方の割合は15%なので、筆談、スマホなどで対応するやり方もあることを学びました。

アンケートでは、「発達障害への理解が深まった」「息子も自閉スペクトラムですが、福祉センターがあることは知っていましたが、あまりよく分かっておらず、知ることができて安心しました」「手話は動画で分かりやすかったです」等の意見をいただきました。今後も、参加された方に障害理解をしていただき、協力ボランティアとして登録していただけるような内容の講座を企画し、開催していきたいと思っております。

【講座風景】

